

平成24年度病害虫発生予報第4号(7月予報)

今月のトピックス

カンシャシンクイハマキ(さとうきび)

学名 : *Tetramoera schistaceana*



カンシャシンクイハマキ成虫



カンシャシンクイハマキ幼虫

幼虫の区別



イネヨトウ



斑紋がある

カンシャシンクイハマキ

生態と被害

沖縄では年6～7世代を重ね、周年発生する。1雌当たりの生涯産卵数は200～500卵に達する。ふ化幼虫は、さとうきび葉鞘の内側を下降して節部の芽や根帯から食入し、生長点を加害し芯枯れを起こす。

さとうきびにおいて、メイチュウ類とは一般的に本種とイネヨトウの2種を指す。カンシャシンクイハマキの体色は淡黄色で背中に規則的な斑紋がある。一方イネヨトウの体色は紫がかっており、斑紋はみられない。カンシャシンクイハマキは卵を葉の付け根に1～数卵ずつ産み付けるため、圃場内での芯枯茎の分布は集中しない。

<http://www3.pref.okinawa.jp/site/view/cateview.jsp?cateid=119>

平成24年6月28日
沖縄県病害虫防除技術センター